

天遊

大阪教育大学広報誌 TENYU

2014.Winter

Vol. 28



P2～3.センター紹介 その5／手をつないで vol.6／

P4～5.ラボ訪問／

P6～10.STUDENTS NOW! 内定学生にインタビュー／

P11.附属学校園ウォッチ／本読みのススメ 第7話／

P12.TOPICS



人にまっすぐ。大阪教育大学

センター 紹介

その5



時代のニーズに合わせ発展、進化

情報処理センター

計算機センターから 情報処理センターへ発展

本学の情報処理センター（以下、本センター）は、教育研究のための情報処理システムを提供する学内共同利用施設として、平成3年（1991年）12月に発足しました。

前身は昭和50年（1975年）4月にさかのぼります。大阪大学大型計算機センターのリモートステーションとして天王寺本館（現・西館）2階にデータステーションが設置されました。その後、情報教育システムの設置と池田分校に情報処理教育実習室、ワークステーション設置などが行われ、コンピューター数十台が並べられ、文字通り「情報処理教育」の学内センターとして整備されました。この当時の利用者は、主として心理・教育系の統計処理ユーザーと自然科学系の計算ユーザーなどで、全教員の約10%でした。

昭和60年（1985年）頃には、パーソナルコンピューター（PC）が普及し始め、インテリジェ

ントなTSS端末として利用されるようになり、さらには、情報教育のための環境を整備すべきであるという議論が湧き起こりました。

その基盤づくりや、議論を踏まえ、およそ20年を経て情報処理センターへと発展しました。

ネットワークが整備され インターネットが普及

柏原キャンパス移転統合開始から10年間は、日本で全国的なキャンパスネットワークの整備が行われた時期でした。また、インターネットの普及期とも重なったために、情報処理センターの利用登録者も全教員の90%に達しました。インターネットについては、本学と同程度の規模の他大学に比べ、非常に早く導入されたといえます。

この間、センター長は、谷口友彦教授を初代に、越崎國雄教授、佐藤隆士教授、片桐昌直教授（現在）と引き継がれています。

片桐センター長に聞く

「ICT教育の研究・活用が大きな課題に」

片桐センター長は「情報環境的にはよい状況ではありますが、センターは大きな転換期にあります」と投げかけます。というのも、「インターネットが広がるにつれて、センターの守備範囲が名称にある“情報処理”の枠組みを超えてしまっているからです」と指摘します。

また、教員養成大学としての課題も突きつけられています。教育現場でICT（information and communication(s) technologies 情報

サーバー室



通信技術）が進展し、どのように活用するかが学校現場で課題となっているなか、本センターとしてもどのように対応していくかの方針を迫られています。その方針を確立する役割を担っているのも「センター長」ではないでしょうか。

片桐センター長はこれについて、「情報処理センターを改組してICT教育に踏み込んだ形にもっていきたいと個人的には思っています。そうしないと、大学としての使命を果たすことができないと思っています。つまり本センターは新たな役割としてICT教育の研究の推進組織として歩んでいく必要があると認識しています」

「センターの改組も視野に」

また、大学全体のレベルからも、「本学が現在進めている教職大学院、HATO*、京阪奈3教育大学連携といったプロジェクトについてもネットワークやICTを使います。特に教職大学院についてはICT教育が大きな課題として必ず入ってき

ますので、そこにセンターがどのように関与するかも含めて、関係の先生方と検討を重ねていき、改組の可能性、方向性を今年度中に示すことができればと思っています」と抱負を語ります。

「スマホやSNSなど学生・教育現場の変化にも対応」

ところで、本センターのサービス対象は学生と教員ですが、教員に対してはLANの基盤の整備、学生に対しては情報環境の整備を重要な役割として担っています。大学として情報教育、あるいは情報環境をどのようにしていくのかということと密に関わってくるため、情報処理センターだけでどうこうできる問題ではなく、なっているのも事実です。この点について、「センターの改組を行って、学生を取り巻く情報環境の急速な変化に対し、新しい情報処理センターとしてどのように取り組んでいったらいいのかについて検討を重ねていきたい」と強調します。

例えば、学生を取り巻く情報環境について、平成25年度学生生活実態調査ではほとんどの学生がスマホ（スマートフォン）を持ち、LINE、FacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を使っているという結果が出ています。「情報モラルの問題まで踏みこんでいかざるをえない状況にあります。センターとしてどこまで対応すべきなのかについて、ある意味で非常に悩ましい部分です。カリキュラムのなところまで関わってきますし、機器をどのように使うかというだけではなく



現職教員を対象としたタブレット端末講習会の様子

なっています。大学には情報メディア基盤委員会という組織があります。そこで、その対応を検討しているところです」

「タブレット端末に注目」

また先駆的な取り組みの1つとして、昨年11月には、タブレット端末の活用について学校現場の先生方に出席してもらい研修会が実施されました。（写真）

今後の研修の方向について、片桐センター長は「タブレット端末というのは、ここまで申し上げた課題を考えるにあたって非常に象徴的で、従来のパソコンとは全く異なる情報ツールです。従来のパソコンの場合、ICT教育を実施する

際も、経費の関係等で学校現場において自由に導入するということではなかったのですが、タブレット端末の場合、1人1台も可能な価格なので、状況が一変するのではないかと思います。使い方もパソコンとは全然異なって直感的に動かすことができますし、カメラ機能もインターネット機能もあります。つまり質・量ともに大きく違う状況が始まっています」と述べています。

情報処理センターは今後も時代のニーズに合わせて発展、進化することが期待されます。

※北海道教育大学、東京学芸大学、愛知教育大学、大阪教育大学による連携

手をつないで

vol.6

男女共同参画推進コラム

無意識って怖い

毎日新聞の朝刊（2013年1月8日）に、次のような投書が掲載されていた。

「ある団体事務所で働き出して12年になる。私と同世代か少し上の世代と思われる男性から、問い合わせの電話があった時のことだ。手続きについて説明しようとした私の言葉を遮って、男性は「そんなに面倒なことが必要なのか」と言い、その後で「あんたはもういいから、男の人に代わって」と言った。『事務員は私だけだ』と話すと、彼は小さくため息をついた」

この記事を投稿した女性は言う。「彼はなぜ『もっと話の分かる人に

代わって』と言わなかったのだろう」と。

このやりとりから、この男性が“女性軽視”、“男性優位”の観念を持っていることは明らかである。もし、この男性にそれを問うたならば、「自分は決してそのようなことはない」と言うだろう。「決してそんなことは言っていない」と言うかもしれない。彼は、おそらく、無意識のうちに「男の人に代わってくれ」と言っているのである。

本学の男女共同参画専門部会委員を務めて3年になる。その間、委員会の会議や教職員研修への参加を通して、ジェンダーや人権といったことに関して学ぶ機会を得た。男女共同参画への意識は以前よりも高くなったと思っている。しかし、上記の投書記事を読んで、自分が無意識のうちにひどい言葉を発しているかもしれないと思い多少ゾッとした。無意識って怖い。そのようなことがないよう意識して行動・発言するようにしたいと思う。

男女共同参画推進会議
企画専門部会委員 廣木 義久（実践学校教育講座教授）

教授
きた がわ じゅん こ
北川 純子
教員養成課程音楽教育講座



音楽を手触りで感じ取って

ギター、ウクレレ、三味線、三線(さんしん)などの弦鳴楽器に触れる授業を先日実施しました。毎週木曜日で、小学校専門音楽を受講する学生、1クラス約60人が対象です。

その授業のねらいを「学生が、さまざまな楽器を弾いて、手触りで音楽が身近にあるという感覚を感じ取ってほしい。音楽は余所(よそ)にある客体ではなく、人間がおこなうものだ、という感覚です。小学校教師になって音楽を教える際に、そのような感覚を基礎においた先生なら、子どもたちの音楽に対する感性をしなやかに伸ばしてくれるのではないかと期待します」と話します。

次の週は、キーボード、ギター、カホンといった楽器群と歌による《スタンド・バイ・ミー》のアンサンブル。そして授業の最終週は、グループ活動によるミニコンサート(発表会)。どの授業でも、生き生きと音楽に浸る学生の姿がみられました。



専門は音楽学、音楽社会学。音楽社会学とは、「音楽と、音楽する行動と、音楽する人びととを対象に据え、学問的にアプローチする分野です。文化の中の音楽、音楽する人間、音楽する行動、そうした多角的な視座のもとに音楽そのものに様々な視点からアプローチし、体系的に研究しています」

ここ数年取り組んでいる研究テーマは、音楽とジェンダー、現代日本社会における音楽文化のありかた、浪曲三味線の即興性などで、英語、またドイツ語での共著書も発表しています。

「学問的なアプローチとはなにも本を読みこなして咀嚼(そしゃく)することだけを指すものではありません。足を使ってフィールドに出向き、その“場”の空気を感じとりながら自分のものにしていきつつ、そこでの音楽のありかたを考える、ということも含まれます。また、聴いたり、弾いたり、歌ったり、つくったり…という背景をもった“感じかた”を、何らかの方法で裏付けようとして、あるいは人と議論できるような共通の土俵をつくろうと試みたり、ということも含まれます」

小学校専門音楽で、学生が様々な楽器に触れて、感じ取る授業はその一環のようです。

演奏家としては、3年前から浪曲の三味線伴奏の曲師として活動しています。活動は関



東が中心で、東京浅草・木馬亭での浪曲定席に毎月出演。先日は、『名人竿忠／誉の水馬』(長谷川伸原作)で、浪曲師・藤田元春の曲師をつとめたCDを発表しました。「アドリブ(即興)という観点からみた浪曲と浪曲三味線の研究を、今後は海外にも積極的に発信したい」と意気込みます。

教授
しま ざき ひで お
島崎 英夫
教職教育研究センター



“さすが”と言ってもらえる教師に

「さすがだと言われ、子どもや保護者からリスペクト(畏怖、尊敬)される先生になれと、学生には伝えています」。「教職実践演習」で実践的指導力の育成をめざす授業のねらいを尋ねると、間髪を入れず返ってきました。

前職の大阪府教育委員会では多くの「指導力不足教員」をカウンセリングしてきました。「彼ら彼女らは異口同音に、わたしは子どもとしっかり向き合ってきました、信頼関係があったはずなの」と言い訳をします。しかし、信頼があったと思っていたことはあなたの勝手な

思い込みで幻想に過ぎなかったのではないかと論じ、「逆説的に言えば、向き合ったがゆえに、子どもへの不満が見え過ぎて、体罰、セクハラ、パワハラにつながるがよくあるのです」とアドバイスすることです。

「子どもと信頼関係があるのは最低限の要素です。でも、それだけでは不十分。教師は、子どもが歩むべき道や目標を背中ではっきり示すのが仕事です。そのことを学生たちに演習でわかってもらいたいのです」

『島崎先生の授業を今(4回生)ではなく、もっと前に受けることができればよかったなと思いました』。演習を受講した学生が寄せた感想の一節です。学生らに「こんな授業、初めて」と言わしめていることが、多くの感想文から読み取ることができました。

では、どのような指導によって導かれたのでしょうか。広報スタッフは教室で一端をのぞいてみました。

授業では、いじめにあっている子どもの保護者の苦情に対して担任がどのように対応したらいいのかを探るために、保護者とのやり取りを様々なシチュエーションのケーススタディで示し、グループでディスカッション、みんなの前で発表しました。そして、どのように対応するのがベストなのか全体で討議します。学習の随所に島崎教授の現場経験を踏まえ

た効果的なアドバイスがなされます。また「保護者からの話のメモを取る姿勢が大事」など、教員にとっていかにコミュニケーションする力が大切なのか強調されます。そして、時には、「学校がモンスターペアレンツを作っていると思いませんか」「教員には誰もがなれるが、誰もがいい先生になるとは限らない」などと過激に問題を投げかけます。

「信頼される教師にはなるな、という逆説的な問いかけは、自分勝手に描いていた保護者や学校へのイメージを壊すことにつながります。わたしはそのことを“異化効果”と呼んでいます。そこから本当の学びが始まるのです」

島崎教授は、大阪府立高等学校3校で国語科の教員をつとめたあと、大阪府教育委員会で「人権教育」「指導力不足等教員対策」「学校経営相談」などを担当しました。府立高等学校校長を経て、再び府教育委員会で高等学校課参事などを務めたあと、2011年4月から交流人事で本学教授に着任しました。

「3年間を振り返って印象的なのは日々の授業での学生たちとのふれあいです。現場で頑張っている人たちから連絡をもらい、現場で出会えると嬉しいですね」



子どもの味方になれる先生に

学校教育教員養成課程美術教育専攻小学校コース 木藤 詩以花さん

❧ 大阪市立小学校教員に採用内定

— 教職をめざしたきっかけは。

木藤 ずっと子どもに関わる仕事に就きたいと考えていました。児童相談所の職員も視野にあったのですが、最終的に小学校の教員になると決めました。教育実習で、不登校、虐待、ネグレクトなどに苦しむ子どもや保護者と関わって、やりがいのある仕事だと感じました。実習で指導を受けた先生が素晴らしい方で、担当する子どもの家庭訪問を毎日に行う熱心な方です。子どもとの関係を、保護者に遠慮して距離を置くのではなく、肌と肌を触れあうことが大切であると教えていただきました。先生から得た「聞く・話す・見る・ふれる」ことの大切さは、素敵だと感銘を受けました。子どもを救えるのは小学校の教師だと憧れました。

— 大学4年間はいかがでしたか。

木藤 いろいろな校種で教えるアルバイトで現場経験を積んだことが実になっています。

価値観を変えてくれたのがカンボジアでの経験でした。孤児院や自給自足の村での子どもたちとのふれあいです。学ぶことが楽しいと目が輝いていて、木登りをして自然の中でのびのびとして、ストレスがない生活を送っていました。

日本の子どもたちは、様々な問題が低年齢化して元気がないですが、カンボジアで出会った子どもたちのように輝くようにしたいと思っています。

— 来年4月から教壇に立つのですが不安と期待が入り交じっているのではないですか。

木藤 正直なところ不安だらけです。現在は毎日のように学校での教育補助のアルバイトをして、現場感覚を磨いています。少しずつ自信を付けています。

— どのような先生になりたいですか。

木藤 絶対に子どもの味方であり続ける先生です。何があっても子どもへの愛情を絶やさ



ないお母さんのような存在になりたいです。

— 後輩にメッセージを。

木藤 大学時代のたくさんある時間を無駄にしないで、旅行したりして、いろいろな人と出会ってほしい。できれば発展途上国に出向いてほしい。わたしは、カンボジアで価値観を変えられました。

将来は電車の運転手に

幼稚園教員養成課程 山田 恵さん

❧ 西日本旅客鉄道会社に採用内定

— 最初は幼稚園教員になりたかったのですね。それで、本学を選ばれた。

山田 中学校時代の職業体験学習で教員という仕事を知り、教職に関心が高まりました。高校生で参加したオープンキャンパスでは自然豊かな環境にキャンパスがあり、幼稚園教員養成課程の先輩方の温かいもてなしやアットホームな雰囲気に感動しました。

— 在学中に進路変更されたのですね。

山田 飲食店のアルバイトを初めて経験して、接客の面白さを知りました。子どもを含めていろいろな人のサポートをしたいと考えるようになりました。それで就活を急ぎ始めました。

— 鉄道会社では現場を希望されているそうですね。

山田 はい。将来は電車の運転手になるつもりです。2年間、駅務や車掌でお客様対応に携わり、経験を積んでいきたいと思っています。

そして、お客さまに安心感を与えられるような運転手になりたいです。

— 就活を振り返っていかがでしょうか。

山田 周りの仲間が幼稚園教員就職をどんどん決めていく中で、ひとりだけ企業就職をめざしていましたので、相談する人が少なかったです。トータルで約50社エントリーしました。今年1月から3月は、昼間は説明会を掛け持ち、夜はエントリーシートの作成と、体力的にきつかったです。4月以降は、なかなか内定が得られないことから焦りが募りました。精神的なプレッシャーがありましたが、5月にやっと決まりました。

— これから就活を始めようとする後輩にアドバイスを。

山田 就活期間は辛かったけれど、終わってみればあつという間でした。むしろ充実感があります。振り返ってみて、もう少し思ったことをすぐに行動に移せばよかったという反省はあ



ります。面接では自分らしさを前面に出すことがポイントです。もちろん笑顔が大切。

支え合う友達をたくさん作って

学校教育教員養成課程数学教育専攻中学校コース 水田 ちなみさん

になり受験先を決める際に、それではいけないと不安になっていました。相談に乗って教えていただいたのが、通っていた高校の教頭先生でした。数学ってこんなに面白いのだと感じさせてくれました。お陰で数学の力も急に伸びまして、大学受験をクリアすることができました。

— 大学4年間はいかがでしたか。

水田 小学校3年から始めた剣道を大学でも続けさせていただきました。主力選手ではなかったのですが、素晴らしい仲間にも恵まれました。剣道部での活動が大学生活で一番の思い出です。

— 剣道の女子は、昨年秋の全国大会で関西の国立大学では初めての準優勝を果たしましたね。

水田 日本一にはなれませんでした。強化練習をしたり、みんなでいろいろ考えながらやってきたので、結果を出すことができて本当によかったです。後輩たちには次の目標に向かって頑張ってもらいたいです。

— 部活動と勉強との両立は大変でしたか。

水田 教員採用試験の対策に取りかかるのが、他の人よりかなり遅くて焦ったこともありましたが、でも、専攻の友達と一緒に勉強して助けてもらいました。面接練習は、教採カフェやキャリア支援センターに通い、自信をつけることができました。

— 4月から教壇に立つのですが、どのような先生に。

水田 自分がそうだったように、数学の面白さを生徒に伝えたいです。数学は、1つ分かったら達成感を感じることで、やる気につながり、さらに深いところまでどんどん分かってきます。また、答えは1つですが、そこに至るアプローチ、考え方はたくさんあります。そこに面白さがあります。

また、勤務の中学校では部活の顧問をしたいです。経験のある競技がいいなと思いますが、他の競技だとしても頑張りたいです。

— 後輩にメッセージを。

水田 一緒に頑張れる友達を作ってもらいたいことです。勉強でも部活でも友達がたくさんいると、刺激も受けるし、励まし合いもできます。



❧ 大阪府の中学校教員に採用内定(数学)

— 教職を意識したきっかけは。

水田 両親が教師をしていることが直接の理由ではないですが、意識はあったと思います。直接的には、高校時代に数学を教えてくれた先生の影響が大きい。

実は高校2年までは数学が苦手でした。3年生



❧ 兵庫県立高等学校教諭(保健体育科)に採用内定

— 教職に就こうと思ったのは。

森下 高校2~3年生の頃です。中学からずっとサッカーをしていて、スポーツを通じての仲間づくりや人間教育の素晴らしさを体験してきました。それで、高校の教員になって運動部の指導を通じて生徒に関わ

スポーツを通じて人間教育

学校教育教員養成課程保健体育専攻中学校コース 森下 博也さん

りたいと目標を立て、教育大学を志望しました。運動が苦手な生徒に運動の素晴らしさを教えてあげたい。高等学校の教員を選んだのは、大学進学を除外すれば生徒が社会に出る最後の教育機関だからです。

— 4年間の大学生活はいかがでしたか。

森下 実はサッカーではなく、硬式テニス部に入学しました。なにか新しいスポーツに挑戦しようと思ったからです。テニスは全く経験がなかったのですが、周りの同僚や先輩は公式試合の経験が豊富で、実績のある方ばかりでした。ばくは素人で一からテニスを学んだのですが、優しく親切に教えていただきました。

— 部活動で学んだことは。

森下 結構真剣に取り組みましたので、技術的にもそれなりに成長しましたが、やはり人間的成長や仲間とのつながりができたことです。楽しい大学生活でした。

— 教職の勉強はいかがでしたか。

森下 テニス部を引退した4回生の4月から本格的に取り組みました。学習塾などのアルバイトもありま

したので、毎日の目標を決めて効率よく集中して学習しました。目標をしっかりと立て、集中して取り組む習慣は、部活動で学びました。勉強も同じですね。

— どのような先生になりたいですか。

森下 スポーツを通じて人間教育のできる先生です。成績だけではなく、ルールやマナーをしっかりと身につけた生徒を育てることのできる教師です。4月が楽しみです。

— 教職をめざす後輩へメッセージを。

森下 大学の4年間はあつという間です。勉強以外に部活をはじめ、留学、アルバイトなど、興味のあることにいろいろトライしておくことをお勧めします。それから、面接は急ごしらえでマニュアルを身に付けてもあまり効果ないです。日頃から、同じ年代の仲間とだけでなく、目上の人とも多く話す習慣をつけると、本番には必ず生きてきます。こうなりたいという軸があればスラスラと自己PRもできます。その意味で、キャリア支援センターに通うことをお勧めします。

迷うよりまず行動を

学校教育教員養成課程保健体育専攻小学校コース 好川 狩夢さん

㊦ テレビ局(総合職)に採用内定

— 教職をめざして本学に入ったと思いますが、決まった就職はテレビ局。どのように変化したのですか。

好川 小学校から野球をやってまして、大学への進路を考える条件も、硬式野球部がある大学でした。しかも、部活動と勉強を両立できる国立大学に進みたかったのです。大阪教育大学に入ったのは教職の免許も取れるという選択肢も魅力でした。

ただ、以前からスポーツに携わることでできる仕事をしたいと思っていて、卒業後の進路を考える段階でも、教職以外にも道はあるはず、チャレンジしてみようと考えてようになりました。迷うよりまず行動をしていくうちに、自分は教えるより自ら動く職業が向いているなど自己分析するようにもなりました。

— 教職の勉強と併行して就活を始めたのですね。

好川 大手のスポーツ用品メーカーにもエントリーしましたが、野球のニュースや番組づくりに強い朝日放送に認めていただきました。

— 大学4年間の思い出は。

好川 所属していた硬式野球部が、2部リーグに落ちたという苦しみはあったのですが、悔しさをバネに頑張って、4回生の最後に1部リーグに再昇格できたことは何よりの喜びでした。

— 総合職ということですが、具体的な希望はありますか。

好川 スポーツ担当記者になりたいです。フットワークのよさを生かして外へ出て、アスリートやスポーツ指導者に取材等で会う仕事に向いているのではないかと考えています。

— これから就活を始めようという後輩へアドバイスを。

好川 わたし自身、教職か企業就職か迷った時期がありました。しかし、企業就職シーズンが先に始まりますので、まず行動することと腹



を決め、動き始めたら徐々に視界が開けてきました。迷ったときはまず行動をということをメッセージとして伝えたいです。

様々な業種に視野を広げて

学校教育教員養成課程社会科教育専攻小学校コース 平田 祐太郎さん

㊦ (株)ベネッセコーポレーションに内定

— 入学するときは教職をめざされていたのですね。

平田 自宅(広陵町)に近い国公立大学に絞り、教職にも関心があったので、大阪教育大学を選びました。自分自身は就職に対する幅広いスタンスをもっており、将来像がはっきりしていなかったのですが、一緒に学んだ友人たちは教員になるというはっきりとした目的意識をもっていました。そういった仲間との交流の中で、教育実習もうまくいき、子どもたちとふれあうことも楽しかったので教員になってもいいかなと思うようになりました。

— でも、教職には向かわなかった。

平田 教育にかかわる仕事には就きたかったので、教員が働きやすい環境づくり、例えば、ICT教育のシステムづくりに関心が向きました。東日本大震災のときは、物流の大切さを学び、物流に関わる仕事にも興味が湧きました。他に

も、まったく新しい発想、革新的な手段・方法による技術革新(イノベーション)の仕事にも携わりたいと考えるようになり、その思いに応えてくれそうな企業にエントリーしました。ベネッセは教育が主ですが、出版業やリクルート人材育成など幅広い分野に進出しています。

— 思いに応じてくれる会社に出会えたのですね。ところで、大学4年間はいかがでしたか。

平田 とにかくいろいろな業種のアルバイトを経験しました。学習塾をはじめアパレル業界、ビル管理システムなどです。その中でわかったのは、1つ1つの業種だけをみているとその部分しかわからないですが、違う分野にかかわると、様々な部分でビジネス的につながっているということです。その経験を買われて、合同説明会で相談学生に対する就職アドバイザーを頼まれるようになりました。

— 後輩に対するメッセージを。

平田 これから就活を始めようとする学生に



は合同説明会には積極的に出かけ、視野を広げてほしいということです。世の中にはいろいろな仕事、業種があり、実はつながっているのだということに気づくことができます。その中で自分の可能性を見出してほしいと思います。そして、実際の面接では自分らしさを前面に出してアピールするといいです。

失敗も糧になる

特別支援教育教員養成課程 竹崎 詩織さん

— 4年間で印象的なことは。

竹崎 長野県の白馬南小学校での学校教育体験実習に参加したことです。特別支援学級に入らせていただき、充実した3週間を過ごすことができました。また、夏季休業を活用し、趣味の海外旅行も兼ねて、インドでフリースクールの支援ボランティアに参加し、特別授業も受け持ちました。

— インドの子どもたちと触れ合っていたか。

竹崎 勉強したいという意欲がものすごく強く、トイレに行くのも惜しいという程でした。フィリピンのスラム街でキッズサポートに参加したときも、子どもたちの学びたいという気持ちに圧倒されました。現地の子どもたちは貧しいですが、目が輝いており、石1つでも遊ぶことができます。

— アジアの発展途上国によく行かれているのですね。日本では得られない多くのことを学ぶことができたようですね。

竹崎 日本に帰国して家族のもとに帰りますと、家族っていいな、家族とのつながりを大事にしようと思ったりします。

— もちろん、日本でも様々なボランティア活動をしているのですね。

竹崎 障がいを受けた子どもたちが遊びや学習を通じて仲間と交流するのを支援する「特定非営利活動法人 おもちゃライブラリー」で支援員を1回生から続けています。また、大学祭等での手話劇(手話サークル)など、いずれも企画から運営、実際の活動まで携わらせていただいています。

— 様々な形のボランティア活動を体験しているのですね。教師としての実践的な基礎力が培われたと思います。後輩へのメッセージを。

竹崎 大学時代は時間がたくさんありますから、無駄にしないで様々な活動に取り組んでほしい。失敗も必ず糧(かて)になります。



㊦ 大阪府立特別支援学校に採用内定

— 特別支援学校の教員をめざしたきっかけは。

竹崎 障がい児教育にずっと関心がありました。高校時代に人権体験学習で大阪府立特別支援学校で活動する機会があり、障がいのある子どもたちと交流しました。すごく楽しくて、先生という仕事に魅力を感じました。

今しかできないことを全力で

養護教諭養成課程 浅井 砂樹さん

直に出せる場所でした。わたしも保健室の先生になりたいと。

— 大学4年間はいかがでしたか。

浅井 1、2回生はテニスに熱中しました。授業にはあまり熱心ではなかったです。でも、3回生から、学校現場や病院での実習など専門の勉強が始まると、「養護教諭になりたい」との思いが高まり、真剣に取り組むようになりました。授業もしっかり聞こうと、教員になるという覚悟ができたように思います。

— 女子テニス部はこの秋、念願の1部リーグに昇格したのですね。

浅井 そうです。わたしが1回生の時には5部リーグでした。チーム全員がみんなのために考え行動したからこそその結果だと思います。

— これから大学生活を送ろうという1回生になにかメッセージを。

浅井 わたしは2～3回生のときに学校現場で保健室のボランティア活動に参加しました。

小中高特別支援学校の様々な校種を幅広く経験し、視野が広がりました。このような経験は「今しかできない」と思ったからです。また、遊びも部活も就活が本格化する3回生くらいまでしかできないですから、「今しかできない」と全力で取り組むことをお勧めします。教採の面接でもそのことをアピールできるようになります。そして何より学科でもサークルでも同じ目標をめざす仲間と励まし合いながら歩むということが大切です。わたし自身、勉強も教採もひとりではとてもやり抜くことができませんでした。

— 最後にどのような保健室の先生になりたいですか。

浅井 子どもの話に耳を傾け、心に寄り添える先生です。保健室を、子どもが心を開いてくれるスペースにしたいです。



㊦ 奈良県の小中学校に採用内定

— 養護教諭をめざしたきっかけは。

浅井 高校の部活で硬式テニスに熱中してまして、体調を崩してはしょっちゅう保健室のお世話になっていました。けがで試合のメンバーから外されて、泣いたり怒ったりしても優しく親身になって話を聞いてくれました。自分が正

今を一生懸命生きることが大事

教養学科芸術専攻音楽コース 北村 真理さん

※全日本空輸(ANA)客室乗務員に採用内定

— 音楽コースをめざしたきっかけは。

北村 4歳からピアノを始め、高校も音楽科に申し込みました。オープンキャンパスでこの学校なら音楽以外にも沢山学ぶことができる、と迷わず入学しました。

— 学生生活はいかがでしたか。

北村 専攻の音楽以外にもいろいろな活動に関心があり、スキーインストラクターやボランティア演奏、巫女さんもやったことがあります。

— 客室乗務員の仕事を意識したきっかけは。

北村 海外に関心があったので、2回生のとき、芦屋市学生親善使節として、米国に派遣されたことがあります。向かうANA飛行機内で芦屋市の代表というプレッシャーからとても緊張していたのですが、客室乗務員の方は、そんなわたしの様子に一瞬で気付き、何度も声を掛けてくださいました。そのことに感激して、わたしも絶対に客室乗務員に

なりたい、と強く決心しました。

— それで英語などの勉強を始めたんですね。

北村 猛勉強でした。英検やTOEICの取得はもちろんのこと、エアラインスクールに通い航空サービスの勉強に取り組み、同じ夢をめざす仲間と泣き笑いしました。

— 就活はいかがでしたか。

北村 プライダルや旅行会社にエントリーしたあと、本命の航空会社では、わたしで大丈夫かなと少し不安になった時期もありましたが、ピアノが救ってくれました。

音楽の演奏というのは一瞬一瞬が勝負で、その短い時間内に最高の表現をしなければならないのです。客室乗務員の仕事も、一期一会のお客さまに毎回最高のサービスを提供しなければなりません。そこには共通するものがあると確信と自信が出てきました。

その頃、京都のお寺でお坊さんから教えていただいた「即今只今」(「今を一生懸命生きること



が大事」という意味)が、そのときのわたしの心境にぴたり響きました。それ以来、自分を励ます言葉にしています。

— 就活に臨む後輩にメッセージを。

北村 大学時代には努力やお金など自分の成長への投資を惜しまないでほしいです。とことんやったのであれば結果は必ずついてきます。また、なにかやりたいと思ったなら迷わず進んでほしい。就職というご縁を引き寄せる力となります。縁って不思議な糸で結ばれるものなのです。

就活では、スケジュール管理をしっかりと

教養学科情報科学専攻 工藤 広登さん



※奈良県内の金融機関に採用内定

— 本学を選んだきっかけは。

工藤 高校時代、理系だったということもあり、情報についての専門知識を学ぶことと高校の教職免許を取ることが両立できるところに魅力を感じ、大阪教育大学の教養学科を選びました。

— 就活はいかがでしたか。

工藤 業種を決めずに、メーカー、商社、情報、教材などあらゆるジャンルの会社にエントリー

しました。受けていく中で、徐々に絞りこんでいきました。最終的には教育系と金融系になったのですが、内定をいただいた金融機関は、実力主義ではあってもどこかアットホームな社風が気に入りました。仕事については、人の役に立つ仕事で、成果を挙げれば評価してくれると感じました。入行後は各業務の基礎を研修し、その後適正に応じて最初の配属が決められるシステムです。

— 4月までは忙しいのですか。

工藤 入行までに「証券外務員」の資格を取らなくてはならず、卒論をまとめると同時にその勉強で忙しくも充実した毎日を送っています。そして、徐々に社会人としての自覚をもつようにと気を引き締めています。

— 4年間の大学生活はいかがでしたか。

工藤 ひと言で、とにかく楽しかったです。情報科学の勉強でも仲間や先生方に恵まれました。来年も学生でいたいぐらいです。インター

ンシップや教育実習(高校情報)も緊張はしましたが、振り返ると楽しく大きな経験の一つになっています。

— 勉強以外に何か取り組みましたか。

工藤 高校の仲間と作った野球チームと大学のバドミントンサークルに入って、汗を流しながら多くの友人と交流を深めました。

— これから就活に取り組む後輩へメッセージを。

工藤 1つはスケジュール管理をしっかりと行って、余裕をもって行動することです。

2つ目は、周りに流されるなということです。進路を決めるのは自分です。これといった正解がみえないのが就活の難しいところだとは思いますが、周りの人の意見を参考にするなかでもしっかりと自分の意思を持って取り組むことが、希望の内定につながると思います。

附属学校園ウォッチ

附属幼稚園の園児と特別支援の生徒がいも掘りで交流

秋の遠足のため附属幼稚園の園児59人が11月12日(火)、柏原キャンパスを訪れ、附属特別支援学校の農場で、附属特別支援学校高等部の生徒とともにいも掘りを行いました。

農場は、柏原キャンパスの東側の高台にあり、特別支援学校の生徒たちが野外活動の一環として世話をしている畑で、夏の間、畝に水やり、草取りなどをしてさつまいもを育てました。いも掘りが始めると、土の中から赤いさつまいもが次々と現れ、「わー、大きい!」「つながってる!」などと歓声があがりました。

収穫したさつまいもは、それぞれ家庭に持ち帰るとともに、幼稚園の庭で焼き芋にし、園児と特別支援学校高等部の生徒と一緒に食べて、楽しいひと時を過ごしました。



本読みのススメ 第7話 古墳群

本学の柏原キャンパスは、金剛生駒紀泉国定公園という大阪、奈良、和歌山に跨る公園内にあります。大学から間近に見える二上山(にじょうざん)は金剛山地北部に位置しており、謀反の密告により自害したとされる大津皇子の墓が雄岳山頂付近にあることでも知られています。(但し、異説もあります。)

近畿地区には、ユネスコの世界遺産に登録されている文化遺産が5箇所(※)もあり、また登録の前提となる暫定リストにも、「彦根城」や「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」、さらに大阪府下では、仁徳天皇陵と伝えられている大仙陵古墳を含む堺市から羽曳野市・藤井寺市に跨る「百舌鳥・古市古墳群」の計3箇所が掲載されています。

先般登録された富士山を含めた文化・自然遺産全部を入れても我が国には17箇所しかないことを考えれば、この地域がいかに歴史と文化に彩られたものであるか再認識させられます。

今回は、古代史を中心とした歴史小説で有名な大阪市出身の黒岩重吾を紹介します。氏は釜ヶ崎を舞台にした「背徳のメス」で直木賞を受賞したのち、子どもの頃から百舌鳥古墳群の近くで遊んでいたことも影響してか、1970年代後半からは歴史小説の執筆に取組みます。推古天皇を描いた「紅蓮の女王」を皮切りに、壬申の乱を題材とした「天の川の太陽」、強力な実権を誇っていた蘇我蝦夷・入鹿親子が中大兄皇子、中臣鎌足らによって没落してゆく姿を描く「落日の王子」、前述の大津皇子を題材にした作品「天翔ける白鳥」、さらには聖徳太子や額田王など、謎が多い古代史を舞台に書き上げられたロマンあふれる作品群はいずれも圧倒的な存在感をもって読者に迫ってきます。

大阪にはまだ世界遺産の指定がありませんので、「百舌鳥・古市古墳群」がリストに登録されるのを、府民の一人として心待ちにしています。(事務局長:若井祐次)
(※)指定順に「法隆寺地域の仏教建造物」、「姫路城」、「古都京都の文化財」、「古都奈良の文化財」、「紀伊山地の霊場と参詣道」

天遊vol.28アンケート

- 本号でよかった記事を下から選んでください。(3つまで。その他は具体的にお書きください。)
- 【 】 【 】 【 】
- (その他)
- ①センター紹介 ②手をつないで
③ラボ訪問 ④STUDENTS NOW!
⑤附属学校園ウォッチ ⑥本読みのススメ
⑦TOPICS

- 取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。
()
- 本誌をどこで手にされましたか。
()
- 本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	☐ 次号以降、毎号「天遊」を送付希望します。 ☐ 今後「天遊」の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報 は広報誌「天遊」の送付以外には使用致しません。

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S TOPICS

1 大学公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」着ぐるみが神霜祭に登場



昨年8月に誕生した大学公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」が11月2日～4日の神霜祭(大学祭)に登場し、お披露目イベントを行いました。メインステージでキャラクターサポーターの学生

2 地元・柏原市長を表敬訪問

たちが「やまお」と「たまごどり」を紹介し、キャラクターたちが登場すると、会場から声援やどよめきが起り、かわいらしいポーズで観客をわかせました。そのあと、柏原キャンパス内の事務局棟前や共通講義棟付近を練り歩き、来場者や学生らと写真を撮影したり、体育館で開催された「子どもまつり」も訪問し、たくさんの子どもたちとふれあいました。

「やまお」と「たまごどり」を見た人は、「とてもかわいい」「やまおに癒される」「大学にキャラクターが誕生してうれしい」などと話していました。

本学公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」が12月5日(金)、柏原市長を表敬訪問し、「公認キャラクター連携に関する協定書」調印式に出席しました。「やまお」と「たまごどり」は、長尾学長らの見守る中、地元・柏原市公認キャラクター「かしぽん」とともに柏原市を盛り上げていくことを誓いました。



(キリトリ) ✂

郵便はがき

5 8 2 - 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部

総務企画課 行

料金受取人払郵便

柏原局
承認

44

差出有効期間
平成26年
8月31日まで

切手不要



※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他() | | |

公式facebookページを開設しています

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非、「いいね」をクリックしてください。

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>

本誌にご意見をお寄せください。

今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.28
webアンケート

「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。この印刷物は、12,000部を722,400円で、すなわち1部60.2円で作成しました。